

各位

薬剤部／薬品情報室（DI室）

DI・BOX#0626

「リリカカプセル」の高齢者での 副作用発現率の増加について

疼痛治療剤（末梢性神経障害性疼痛・線維筋痛症）「リリカカプセル」（ファイザー）は副作用として**浮動性めまいや傾眠**が現れることが知られていることから、忍容性の確認のため、**低用量から開始すること**となっています。

また、本剤は未変化体のまま腎排泄される薬剤で、**高齢者や腎機能が低下している患者では副作用が現れやすい**ことから、投与量の減量が必要とされています。

本剤の使用成績調査の中間集計において、**65歳以上の高齢者では、65歳未満の患者と比べて、浮動性めまいや傾眠の発現率が高く、これらの症状により転倒、又は転倒し骨折に至った例もあると報告がありました。**

また、本剤との因果関係は不明ですが、**自動車事故に至った例も報告されています。**これらを受け、「重要な基本的注意」が改訂となりました。本剤を使用する際は、以下の事項にご留意下さい。

<重要な基本的注意>（一部抜粋）

- ・本剤の投与により**めまい、眠気、意識消失**が現れることがある。
- ・特に高齢者では、これらの症状により**転倒、又は転倒し骨折する等の二次障害**を引き起こすことがある。
- ・本剤投与中は、**自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないよう注意する。**

オーダ名	リリカカプセル
成分名 規格	プレガバリン 25mg／カプセル、75mg／カプセル、150mg／カプセル（院外）
適応症 用法・用量	<ul style="list-style-type: none"> ・末梢性神経障害性疼痛：成人には初期用量として1日150mgを1日2回に分けて経口投与、その後1週間以上かけて1日用量として300mgまで漸増。年齢、症状により適宜増減、1日最高用量は600mgを超えない。 ・線維筋痛症に伴う疼痛：成人には初期用量として1日150mgを1日2回に分けて経口投与、その後1週間以上かけて1日用量として300mgまで漸増後、300～450mgで維持。年齢、症状により適宜増減、1日最高用量は450mgを超えない。
採用区分	処方／共通（25mg、75mg）、処方／院外（150mg）

* 詳細・不明な点につきましては医薬品情報室（3194）までお問い合わせください。

* 「DI・BOX」は電子カルテ（EGMAIN）の掲示板およびイントラネットで参照・検索できます。